科学的社会主義研究

不破哲三著

新日本出版社

科学的社会主義研究

不破哲三著

新日本出版社

不破哲三（ふわ　てつぞう）

1930年生まれ
日本共産党中央委員会書記局長
主な著書「マルクス主義と現代イデオロギー」（共著）
「現代政治と科学的社会主義」
「人民的議会主義」
「不破哲三著作集」
「新しい半世紀への前進」
「青年と語る」

科学的社会主義研究

1976年7月30日　初　版
1976年9月25日　第4刷

著　者　不　破　哲　三
発行者　松　宮　龍　起

郵便番号 112　東京都文京区大塚3の3の1
発行所　株式会社　新日本出版社
電　話　東京 (945) 8511
振替番号　東京 3—13681
印刷　壮光舎印刷　製本　古賀製本

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

まえがき

科学的社会主義の事業は、マルクス、エンゲルスがその基礎をすえて以来一世紀と三十年をへて、今日、理論的にも実践的にも、新しい発展の時期を迎えている。この発展のなかで、現代の三大革命勢力、すなわち、社会主義諸国、資本主義諸国の人民の闘争、民族解放運動は、それぞれ独自の役割をはたしているが、発達した資本主義国における革命運動の問題が、今日の時期の一つの大きな焦点となっていることは、七〇年代における南ヨーロッパと日本の情勢の激動をみても、明白である。

すでに一九七〇年の日本共産党第十一回大会で、宮本委員長は、すすんだ資本主義国の革命はまだ本格的にはこの地球上で実現されていないこと、これは「新しい、人類の偉大な模索と実践の分野」であって、そこには「新しい複雑性とともに新しい可能性」が横たわるであろうことを指摘し、科学的社会主義の党がこの分野でになっている任務について、つぎのようにのべていた。「わが党が、人民解放、労働者階級解放の科学にもとづいて、人民の多数の民主的志向を尊重しながら、勇敢に、賢明に、できるだけ犠牲の少ない、社会変革と社会主義建設の道を探究するために全力をつくすことは、人民と真理にたいする重要な義務であります」（第十一回党大会にたいする中央委員会

報告）

人類史上の新しい挑戦ともいえるこの任務をはたすためには、日本と世界の現実が提起する新しい諸問題と積極的に切り結ぶ、大胆な自主的、創造的探究の精神とともに、あらゆる教条主義的図式化を排して、科学的社会主義の学説を、その本来の原点にたちかえりながら、全面的、発展的にとらえる科学的な態度が、きわめて重要である。この論集『科学的社会主義研究』は、私がこの一年間に発表した諸論稿をまとめたもので、取り扱っている主題は、国家論、革命論の領域から哲学の領域にもわたっているが、全体を通じて共通の問題意識となっているのは、以上のような見地からの科学的社会主義の学説の理論的、歴史的な研究であり、現代の諸問題の解明であった。

今日、発達した資本主義国の革命運動の前進のために、科学的社会主義の理論戦線に課せられた任務と課題は、たいへん大きいものがあるが、この論集が、その一助となれば幸いである。

一九七六年七月

不破哲三

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目

次

まえがき

科学的社会主義と執権問題……1
——マルクス、エンゲルス研究——

一　マルクス、エンゲルスの理論的遺産……3

二　労働者階級の権力掌握という新しい思想……11

三　執権の用語と党綱領問題……21

四　「執権」は全権力の掌握……32
——一八四八年の革命の分析から——

五　平和的手段での革命と執権問題……50

六　「労働者階級の権力」と諸階級……62

七　社会主義国家と民主共和制……86

八　レーニンの「執権」論とその問題点……97

九　結びにかえて……110

〔補論1〕「プロレタリアート執権」問題について……119
〔補論2〕向坂氏の批判にこたえる……133
自由と国民主権の旗……137
——マルクス、エンゲルスと現代の革命——
共産党にとって〝自由〟は苦手の問題か(139)　デモクラシーが〝嫌悪と恐怖〟の対象だった時代(140)　当時のイギリスの有権者は二十六人に一人(142)　マルクス、エンゲルスと自由・民主主義(144)　一貫してかかげた人民主権の旗(147)　普通選挙権は社会主義への道（イギリス）(148)　エンゲルス「自由は空気のように必要」（ドイツ）(150)　選挙と議会、民主共和制（ドイツ）(152)　普通選挙権を解放の用具に（フランス）(155)　民主共和制を擁護して（フランス）(157)　マルクス、エンゲルス研究のもつ意味は(160)　多面的な可能性を追求する精神(162)「独裁」とはディクタツーラの誤訳(164)　党綱領採択以来の一貫した見地(166)　労働者階級の権力という思想の新しさ(168)　その他の諸潮流とマルクス、エンゲルスの論争の中心点(171)　執権論はブランキ主

義の輸入品という歴史解釈の虚構(173)　ブランキ派を科学的社会主義に接近させた「歴史の皮肉」(175)　ブランキ派の宣言に対するエンゲルスの批判(178)　「法律に拘束されない権力」という定義(181)　強力革命型の人民権力成立条件(184)　日本では人口の三分の二が労働者階級(188)　主役だけではできない社会主義革命(190)　エンゲルスによる革命の三つのタイプ(192)　多数者の利益のための「少数者革命」論(195)　科学的社会主義の多数者革命論(197)　「自然的」で「円滑な」権力継承(199)　臨時党大会で検討する綱領問題の二つの点(200)　創造的理論を足ぶみさせることはできない(203)　マルクス、エンゲルスの時代と現代の違い(204)　国民の政治生活、社会生活の巨大な変化(206)　いっそう高く自由と民主主義、国民主権の旗を(208)

社会構成体論争と史的唯物論……211

一　はじめに……213

二　史的唯物論の「社会」概念……215

三　レーニンと経済的社会構成体……226

四　若干の補足的な問題点 ……240
——「経済的土台」説をめぐって——
理論戦線の到達点と課題について ……251
一　わが党の理論・政策上の到達点 ……253
二　理論上・政策上の諸任務 ……264

科学的社会主義と執権問題

——マルクス、エンゲルス研究——

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一　マルクス、エンゲルスの理論的遺産

昨年〔一九七五年〕十一月、『マルクス＝エンゲルス全集』の邦訳全四十一巻四十五冊が、一九五九年の第一巻発行以来十六年ぶりに完結し、科学的社会主義の学説の創始者マルクスとエンゲルスの理論的遺産が、全体として、日本語で研究できるようになった。哲学、経済学から、歴史、自然科学、政治理論など、人間の精神活動の全分野にわたるその豊富な内容は、文字どおりその時代の〝百科全書〟の名に値するもので、とくに革命運動の理論と実践の諸問題についても、そこにふくまれた蘊蓄（うんちく）の広さと教訓の豊かさには、いまさらのようにおどろかされる。

国際共産主義運動には、一時期、マルクス、エンゲルスをレーニンの先行者とだけみて、かれらの理論的遺産を軽視する傾向の強かった時期があった。こうした傾向に〝理論的根拠〟をあたえたものの一つとして、スターリンによるレーニン主義の定義をあげても、あまり異論はとなえられないだろう。スターリンは、レーニンの死の三ヵ月後に発表した論文「レーニン主義の基礎について」（一九二四年）のなかで、レーニン主義を「帝国主義とプロレタリア革命の時期のマルクス主義」と特徴づけ、これに対比して、マルクス、エンゲルスの理論を、帝国主義以前の時期の理論――事実上歴史がすでに乗りこえた過去の時代の理論と規定したのである。

「結局のところ、レーニン主義とはなにか。

レーニン主義は、帝国主義とプロレタリア革命の時代のマルクス主義である。もっと正確にいえば、レーニン主義は、一般的にはプロレタリア革命の理論と戦術であり、特殊的にはプロレタリアートの執権の理論と戦術である。マルクスとエンゲルスが活躍したのは、発達した帝国主義がまだなかった革命前（われわれはプロレタリア革命のことをいっているのであるが）の時期、プロレタリアを革命的に訓練する時期、プロレタリア革命がまだ直接的、実践的に不可避なものでなかった時期であった。ところが、マルクスとエンゲルスの弟子であるレーニンが活躍した時代は、発達した帝国主義の時期、プロレタリア革命の展開期、プロレタリア革命がすでに一国で勝利をおさめ、ブルジョア民主主義をうちくだいて、プロレタリア民主主義の時代を、ソビエト時代をひらいた時期であった。

だからこそ、レーニン主義はマルクス主義のいっそうの発展なのである」（スターリン全集⑥八六ページ）

こうした見方にたてば、革命運動の理論や戦術の問題を研究するためには、レーニンのより発展した理論を研究すれば十分であって、マルクスやエンゲルスの過去の時代の理論にあまり多くの注意をむける必要はない――こういう考え方がひきだされてくるのには、なんの不思議もない。現にスターリン自身、革命運動のあれこれの理論問題で、マルクス、エンゲルスの古くさくなった見地の〝克服〟について、何度となく論じている。*

＊ たとえばスターリンは、(イ)「わが党内の社会民主主義的偏向について」(一九二六年)では、世界革命に関するマルクス、エンゲルスの古い定式の克服について、(ロ)「ソ連共産党史」の結論(一九三八年)では、議会制民主共和国をプロレタリアート執権の特有の政治形態としたマルクス、エンゲルスの声明を、レーニンが、プロレタリアート執権のもっともよい政治形態はソビエト共和国であるという結論でおきかえたことについて、(ハ)「エンゲルスの論文『ロシア・ツァーリズムの対外政策』について」(一九三四年)では、ロシア・ツァーリズムを「全ヨーロッパ反動の最後の要塞」と評価したエンゲルスの誤りについて、論じた。

実は、マルクス、エンゲルスの理論的遺産にたいするスターリンのこうした態度は、けっしてレーニン的なものではなかった。スターリンのいう「帝国主義とプロレタリア革命の時代」に活躍したレーニン自身は、マルクス、エンゲルスの主張や見解を、前時代のものとして簡単に片づけるようなことは、けっしてしなかった。反対に、レーニンは、第一次世界大戦中、ロシアの婦人革命家イネッサ・アルマンドが、戦争問題にたいする二十余年前のエンゲルスの態度を批判したとき、マルクス、エンゲルスにたいするこのような安易な批判をたしなめて、つぎのように書いた。

「私は、生涯のうちにエンゲルスを日和見主義的だといって、せっかちに非難するのを非常にたくさん見うけましたが、そういう非難にたいしてはきわめて不信な態度をとっています。まあやってみたまえ、エンゲルスがまちがっていたということを、まず証明したまえ!!　と。証明はできないのです!……

いや、いや。エンゲルスも無謬ではありません。マルクスも無謬ではありません。だが、彼らの『誤り』を指摘するには、これとはちがった仕方で、そうです、まったくちがった仕方で取りかからなければなりません。そうでないと、あなたはひどくまちがっているのです」(「イネッサ・

アルマンドへの手紙」、一九一六年十二月二十五日、レーニン全集㉟二八一ページ）

しかも、歴史の発展が、〝なめらかに、きちんと前進していく〟一本調子の過程ではなく、〝あともどりの大跳躍〟をもふくむ弁証法的過程であることは、世界史全体について真理であるだけでなく、科学的社会主義の事業とその理論の歴史についても真理である。マルクス、エンゲルスの死後約一世紀、レーニン死後すでに半世紀を経た今日、歴史の発展にてらして、マルクス、エンゲルス、レーニンの諸労作をふりかえるとき、科学的社会主義の理論が、マルクス、エンゲルスからレーニンへ、レーニンから現代へと、単純に順序を追う発展過程をたどってはいないこと、一連の問題で、マルクス、エンゲルスのおこなった分析や評価に、レーニン以上の現代的内容をもつ場合が少なくないこと、そしてまた、スターリンが、レーニンによるマルクス主義の現代的発展と評価したいくつかの命題が、実は、ロシア革命のロシア的特徴や、第一次世界大戦後のヨーロッパの特殊な情勢を反映したもので、その当時は積極的な命題だったが、情勢の変化とともに有効性を失ったという場合も少なからずあること、などに、だれでも否応なしに気づかざるをえないだろう。

とくに、高度に発達した資本主義国の革命運動の指針として、科学的社会主義の学説の現代的発展をはかるためには、マルクス、エンゲルスの理論のたちいった、全面的な研究は、特別の重要な意義をもってくる。

それには、いくつかの理由がある。

第一に、マルクス、エンゲルスの研究は、科学的社会主義の学説のいろいろな概念や命題が、本

来、どのような意義と内容をもってこの学説に導入されたかを、明らかにするうえで、重要である。科学的社会主義の革命理論は、多くの点で、スターリン時代に、誤った教条主義的定式化の被害をうけているだけに、今日、いわば科学的社会主義の原点にもどって、それらの概念や命題が、非マルクス主義の諸潮流との対決や闘争をつうじて、どのように形成されたかを、あらためてとらえ直すことは、現代におけるその創造的な展開のためにも、欠くことのできない論理的な基礎作業となる。

第二に、マルクス、エンゲルスが、科学的社会主義の理論をつくりあげ、発展させるさいに、なによりもまず、西ヨーロッパのすすんだ資本主義国における政治、経済、社会の現実の研究を、出発点とも土台ともしていたことである。実際、マルクスの主著『資本論』は、当時のもっとも発達した資本主義国「イギリスの経済史と経済状態との終生の研究の成果」（エンゲルス）だったし、マルクスが、階級闘争と革命の理論を発展させる主要な舞台となったのは、資本主義がイギリスにつぐ発展をとげ、階級闘争がもっともすすんだ形で展開されたフランスだった。

しかも、マルクス、エンゲルスは、その活動が十九世紀に限られていたとはいえ、資本主義世界のさまざまな国の、さまざまの時期の革命運動の諸問題を多面的に研究した。かれらが無数の文通や論評で、革命家や労働者に直接助言した国は、ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、ロシア、イタリア、ベルギー、オランダ、スペイン、スイス、ノルウェー、スウェーデン、ポーランド、オーストリア、ハンガリー、ルーマニアなど十数ヵ国にわたったし、評論などでその国の情勢

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com